

## 子どもたちのために動いたきっかけとこれから

### 分科会記録

こども女性ネット東海

テーマ

- ① 子どもの学びの保障
- ② 子どもの遊びの保障

開催日時：4月22日（水）10：30～12：00

・子どもの権利が保障されないことの要因は大人の問題が多い。子どもの権利を守るのは大人である。大人先行で学ばせたり、遊ばせたりすることに問題がある。
・遊具で遊ぶなど子どもの遊び方が固定している。森や川で遊ぶこともできる。遊びがへたではないか。
・ボーイスカウトが、葉っぱをあつめて動画で共有するなど、うまく遊んでくれる。行事の時だけでなく、日常で遊べることがわかった。
・今教育が変わろうとしている。
・学校では出校日に、子どもの表情などを確認している。書写などの教材を希望者に配布している。

その他

<地域のとり木> ・お稽古事の先生は、子どもにとって第3の広場になっているのではないか。
<つながり> ・今は互いの関係を構築していくことが大切である。「つながる」こと「心のケア」が大事である。 ・災害時など、子育て中の家庭は地域とつながっていないと大変なことになる。 ・1日誰にもあわないことは問題である。 ・ZOONで繋がれないひとをどうすればいいのか。
<情報難民> ・情報難民のかたには、チラシなどを渡している。 ・コロナに関わる知識を身に付け発信していく。
<精神的不安、危機感> ・保護者の不安が大きいのではないか。 ・大阪に住んでいるが、大阪と愛知には危機感にかなり差がある。

テーマ

③ 経済的不安

④ NPO 活動

日時：2020年4月23日（木） 13：30～15：00

<ul style="list-style-type: none"><li>・シングルマザーの方に、行政から申請をしてくださいと連絡がくるが、仕事があり子どももいるので申請にいけない。</li><li>・Wケアのかたも申請にいけない。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・仕事がなくなってきたが、この時期なので転職先がなかなかない。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・金銭的な不安がある。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・経済的支援に関し、情報自体が入ってこない人もいる。困っている人ほど届かない。その本人を見つけ出すことが必要である。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・給食がないので、家庭で3食となると食費が負担になる。つくることも負担になる。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・給付金などで、詐欺行為が発生している。</li><li>・0円から仕事ははじめられるという詐欺もある。</li></ul>

その他

<p>&lt;食のこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大きな子どもの母親は、子どもだけで留守番させているが不安。給食がなく栄養バランスが気になる。</li><li>・お弁当はテイクアウトだけでなく、配達ができると栄養バランスのとれたものを家庭に届けられる。</li></ul>
<p>&lt;保護者のイライラ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活には困っていないが、子どもが毎日いるのでいらいらする。</li><li>・学校から動画が配信されるが、そのサポートが大変である。</li><li>・学校から課題ができるが、子どもが一人でできないので、親がつきっきりとなる。</li><li>・おしゃべりサロンをおこなっている。</li></ul>
<p>&lt;子どもの学び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・オンラインを使える親に限るが、お互い教えあう。大きな塾にあるようなオンラインで自分の親でない人からのサポートもあるとよいと思う。</li></ul>

テーマ

⑤ 女性目線の避難所

⑥ 児童虐待、DV

日時：2020年4月25日（土） 10：30～11：45

<p>・避難所支援センターで特別何かをするということは考えていないが、お菓子等の寄付を頂いているので、今は配布したりしている。そのことで個々の子どもや家庭の状況が把握できてきている。いざという時に役にたつと思う。</p>
<p>・行政の姿勢が変わってきている。指定避難所だけではなく、いろんな避難所を開設しようとする点、パーティションの設置する点などである。地域はどうしてよいかわからない状況である。時系列での正確な情報発信と物資が必要である。</p> <p>・妊婦は、体の少しの変化も、できるだけ早く言葉にして助けをもとめないと大変なことになる。避難所などで、我慢をすると子どもの命を亡くすことがある。</p> <p>・産前・産後の方も、ケアが必要である。</p> <p>・環境によっては、母乳がでなくなる可能性がある。</p>
<p>・専門家ができること、市民ができることを連携していくことが大事である。</p>
<p>・子どもは今の自分の家庭のことしか知らないので、虐待があってもそういうものだと思っているので虐待を早く発見できない。コロナの影響で外部の接触がなくなると増々深刻になる可能性がある。子どもが声を発することができる環境整備が必要である。</p>
<p>・ネグレクト家庭は、親が仕事へ行っている間、子どもはご飯を作って食べている。これまでは児童クラブへ遊びに来ていたが、コロナの影響で行く場所がなくなっている。子どもはストレスがたまっているという声は聞く。</p>
<p>・過干渉の家庭もある</p>
<p>&lt;誰が困っているか&gt;</p> <p>・多胎児の母親が疲弊している状況は伝わってきている。検診の際に、駐車場まで迎えに来てもらうが、そこまで手がかかるということについて周囲から理解してもらえない。</p> <p>・妊婦や産後早期の母親に対する支援が必要である。</p> <p>・介護と育児のダブルケアの支援をしている人は、高齢者はハイリスク者であり、デイサービスも停止しており、悲壮な状況である。どこでどのようなサービスが利用できるのかという情報も入らない。</p> <p>・子どもを連れてく場所がなく、保護者が子どもと1対1で向き合うことに疲れている。</p> <p>・虐待ではないかと、周りの目も厳しくなっており、子どもに対して怒れずにストレスを抱えている。</p> <p>・祖母が口出しをしすぎる場合に困っている。</p>
<p>&lt;どのようなとき・どのようなことが困るか&gt;</p> <p>・子どもが小さいと、子どもがあちこち触るので、買い物に行けない。</p> <p>・自分が感染した際に子どもの面倒をだれがみるのかという不安がある。</p> <p>・ひとり親家庭は、親が感染した時の心配はある。</p>

テーマ

⑦ 情報難民、情報リテラシー

⑧ 行政、地域（自治会、子ども会、PTA等）との関係

日時：2020年4月25日（土）13：30～14：50

<情報難民>

・SNS上で自由に情報を投稿でき、家の中で情報共有ができることはよいが、聞いた情報をそのまま発信することで情報量が増えていくことが課題である。情報難民とは、情報が届かないという場合と、情報がありすぎてどう整理してよいかわからないという2つの難民がいるが、現在は後者の難民が多いと感じている。

<情報リテラシー>

・母親が心配なことをインターネットで調べるが、その調べた情報を助産師に相談に来る方が多くなっている。その際に、納得して帰る場合と、また別の助産師に相談する場合があります。最終的には自分で判断して行動をとっている。

・情報の基本は、元データを調べる必要があるということである。インフォデミックというが、不安と恐怖は視野を狭めるので、強調される部分ばかりに目が行ってしまう。ファクト、事実は良いも悪いもない。事実と感情を分けて発信する必要がある。各メディアを使っている世代ごとに情報を扱う必要がある。

・切り取った情報の拡散は危険である。情報を発信する側は、タイムスタンプや発信元を明記して発信することが重要である。

・高校2年生の息子は、いろんな人のコメントをよくチェックしている。世代によって情報の受け止め方や解釈の仕方が違うのではないか。

・情報リテラシーに関しては、主体が確立しているかどうかである。主体が確立できていれば、自分で選択して自分で責任を取ることができる。

<行政や地域の組織>

・地元の自主防災会で活動している。これらは、ゆっくり変化するが、世の中は急激に変化しており、本当に役に立つ市役所、社会福祉協議会が見えてくると思う。

・地域の組織もコロナの状況により、組織も変わらざるを得ない。変わろうとしている組織は適応して変化していく。変わろうとしていない組織も変わらざるを得ないし、何もしなければ壊れてしまう。

・自主防災会等は自然災害に特化していたが、感染対策も視野を広げていく必要がある。

意見交換・グループインタビュー進行：山口由美子、藤岡喜美子

意見交換・グループインタビュー記録：藤岡喜美子、秋山則子、高木 一恵、島久美子

発言整理：藤岡喜美子